

28日 日本を後にされた。

今回のシンポジウムでは参加者同士が全員個人的に知合になれるようにということで50人程度の参加者を見込んでいた。結局数の上ではその様になったものの大学院生クラスの参加は少なく中堅がほとんどを占めるとい結果に終わった。通常の日本の学会でもそうであるが若い人からの質問はほとんどなくやはり中堅の人の手がよく上がった。語学の問題はあるものの若い人の「大人しさ」は日本に初めて来た米国人にとって少し奇異に映ったようであった。

末筆ながら今回のシンポジウムの成功を支えてくれた科学技術庁研究交流センターの方々 工技院筑波管理事

務所の方々に深く感謝したい。

文 献

- AGUE, J. J. and BRIMHALL, G. H. (1988 a, b) Bull Geol. Soc. Amer., vol. 100 p. 891-911 および p. 912-927.
 AGUE, J. J. and BRIMHALL, G. H. (1988c) Geology vol. 15, p. 63-66.
 CANDELA, P. (1989) Review in Econ. Geol. vol. 4 Econ. Geol. Publ. Co.
 FLYNN, R. T. and BURNHAM, C. W. (1978) Geochim Cosmochim. Acta, vol. 42, p. 685-701.
 浦辺徹郎 (1984) 鉱山地質 vol. 34, p. 323-334.

最近中国で発見された新鉱床

岸本文男 (元所員)

Fumio KISHIMOTO

山東省で臭素鉱床を発見

山東省鉱産資源鉱量委員会は最近 山東省環境水質地質総局が提出した「山東省灘北農場北部地下鹵水臭素資源観察報告」の審査を行った。この報告は 山東省鉱産資源鉱量委員会が審査した初めての臭素資源観察報告である。

臭素 これは用途の非常に広い化学工業原料で 現在中国では毎年相当量の臭素原料に輸入しなければならぬ状態にある。

この報告が明らかにしている臭素資源鉱床は山東省萊州湾の南岸に位置し 深度 2-80mの範囲内に賦存する。現在 設計・企画部門が年産 500 t の臭素工場を設計中である。孫進賢ほか (1987. 10. 23)

内蒙古自治区で一大銀鉱床発見

最近 内蒙古自治区地質鉱産局 116 地質隊は呼倫貝爾盟地域で大型銀鉱床を発見・確認した。このような大型銀鉱床は中国国内ではまだわずかしかな存在せず その銀品位はかなり高く 地表部での含銀品位は最高 4, 250 g/t に達し 今までのところ 6 条の鉱化帯が確認済みである。現在も探査が続けられていて さらに成果が拡大されるものと期待されている。

(中国地質報 1987. 12. 11)

大型瑪瑙鉱床が神農架で発見された

湖北省地質鉱産局第 8 地質大隊の張智卿技師は 最近一冊の地質報告の中で神農架の宋洛郷における大型瑪瑙鉱床の発見を披露した。

この大型瑪瑙鉱床は 神農架層群乱石溝累層の上部層群に胚胎されている。その瑪瑙は赤色 鮮紅色 深紅色を主とし 白色 黄色 紫色のものも少量存在し 一部には灰色のものもある。一部の瑪瑙は同心環状を示し その場合には外側が桃色 核部が灰色で 色が淡いのが特徴である。多くの瑪瑙は半透明ないし不透明少量の灰白色 淡紫色のものは透明度が比較的高い。瑪瑙の単体は一般に頁岩に包有され 採掘しやすく 選鉱しやすい。

今までの探査結果によると この瑪瑙鉱床の賦存面積は 10km² に近く 鉱量は 3, 612 t である。

1986年11月に発見されて以来 鉱石の標本は次々に関係専門家に送られて鑑定され 同時に南陽・襄樊などの玉器美術工場に送られて試験され 当該専門家たちと玉器美術工場の技師たちは神農架の瑪瑙・玉石の艶がよく硬度がアメシストよりも大きく 塊で産出するので彫刻・工芸品に適し 経済価値が高いと評している。

陳漢江・胡景和 (中国地質報 1987. 12. 11)

湖南省冷水灘市郊外で墨青大理石鉱床

最近 湖南省石炭地質勘探第 3 隊は冷水灘市の郊外で大型墨青大理石鉱床を発見した。鑑定・検査の結果によると この大理石の化学組成 物理的性質 機械的強度は良好であり 硬度は規格に合致し 黒さにむらがなく 光沢度が高く 磨けば鏡のようになり 高品質の飾り石材になる。鉱量は 7, 000万 m³ である。

劉笑宇 陳曙東 (中国地質報 1988. 6. 3)